研究報告

新潟県十日町市におけるマツヘリカメムシの初記録

大平　創 [1)]・加藤大智 [1)]

[1)] 十日町市立里山科学館 越後松之山「森の学校」キョロロ

（2023 年 1 月 30 日受付; 2023 年 5 月 22 日受理）

First Record of *Leptoglossus occidentalis* Heidemann, 1910 in Tokamachi City, Niigata Prefecture, Japan

Hajime OHIRA, Daichi KATO

[1)] Echigo-Matsunoyama Museum of Natural Science ‘Kyororo’

はじめに

マツヘリカメムシ *Leptoglossus occidentalis* Heidemann, 1910（カメムシ目：ヘリカメムシ科）は北アメリカ原産のカメムシで，日本やヨーロッパに外来種として侵入・定着している（石川ら 2012）．日本では2008年に東京都から記録された後（石川・菊原 2009），全国各地に分布を拡げている．マツヘリカメムシの都道府県レベルでの記録については鶴ら（2020）に詳しく，岩手県，宮城県，秋田県，山形県，福島県，茨城県，栃木県，群馬県，埼玉県，千葉県，東京都，神奈川県，新潟県，石川県，山梨県，長野県，岐阜県，愛知県，大阪府，兵庫県，鳥取県，福岡県，熊本県の23都府県において記録されていた（文献情報については鶴ら（2020）を参照のこと）．その他には，奈良県（井藤 2016），山口県（田中 2019），佐賀県（中村 2019）からも記録があり，鶴ら（2020）以降には，青森県（有本 2022），福井県（一瀬 2021），静岡県（岸本・島田 2021），京都府（一瀬 2021），島根県（森本 2021），岡山県（斉藤・山地 2021），香川県（玉川ら 2022），大分県（三村 2021），沖縄県（刀禰 2020）で記録され，現在では35都府県にまで分布を拡げている．本州・四国・九州・沖縄で記録されたことにより，初記録の2008年から15年あまりで北海道を除くほぼ日本全国に分布を拡大したことになる．

図 1. 十日町市産マツヘリカメムシ *Leptoglossus occidentalis* Heidemann, 1910（乾燥標本）

新潟県においても散発的にマツヘリカメムシが記録されている．これまでに新潟市（馬場 2015a, b），長岡市・柏崎市（真嶋 2016），新発田市（中野 2016），燕市（斎藤 2020）で記録されており，現状では下越地方・

中越地方に分布する．本稿は十日町市で採集されたマツヘリカメムシについて報告するものであり，現時点における新潟県内の南限記録となる．

採集状況および考察

マツヘリカメムシは十日町市立里山科学館越後松之山「森の学校」キョロロの館内（十日町市松之山）で採集された．2022年11月24日に加藤がキョロロ館内で1個体を採集した．採集された個体は酢酸エチルで固定し，乾燥標本とした．標本はキョロロで保管している．

＜採集データ＞

マツヘリカメムシ *Leptoglossus occidentalis* Heidemann, 1910

採集日：2022年11月24日

採集地：新潟県十日町市松之山松口 十日町市立里山科学館越後松之山「森の学校」キョロロ館内（37.099713°N, 138.617295°E; 310 m alt.）

採集数：1 個体（成虫）

採集者：加藤大智

同定者：大平　創

採集されたマツヘリカメムシは越冬のために屋内に移動してきたものと思われる．他県においても冬季前に建物外壁や室内で発見される個体が報告されており（e.g. 宮ノ下・曲山 2014; 鶴ら 2020; 有本 2022），キョロロ館内で採集された個体も越冬のために近隣から移動してきたものであろう．マツヘリカメムシはマツ科植物をホストとすることが知られており（石川・菊原 2009; 石川ら 2012），キョロロ周辺を含む松之山でも，規模は小さいもののアカマツ *Pinus densiflora* Siebold et Zucc. やカラマツ *Larix kaempferi* (Lamb.) Carrière の群落が確認されている（松之山町史編さん委員会 1991; 畑田ら 2009）．また，キョロロ・美人林周辺にはドイツトウヒ *Picea abies* (L.) H.Karst. と思われるマツ科植物も植栽されている（小林，私信）．松之山で確認されたマツヘリカメムシは，これらのマツ科植物をホストに生息していたものが，屋内に侵入したものと思われる．

今後，マツヘリカメムシは新潟県全域に拡がる恐れがある．新潟県内のマツヘリカメムシは新潟市から記録された後（馬場 2015a, b），長岡市・柏崎市（真嶋 2016），新発田市（中野 2016），燕市（斎藤 2020）と，下越地方・中越地方を中心に記録されてきた．そして，上越地方と隣接する十日町市での本記録が，現時点における新潟県内の南限記録となった．これまでに上越地方から記録はないが，近隣では石川県で記録があり（渡部 2020），インターネット上の匿名の記事では富山県にも分布することが示唆されている．中越地方側あるいは富山県側から上越地方にマツヘリカメムシが侵入する，あるいはすでに侵入している可能性は高いだろう．

また，すでにマツヘリカメムシが記録されている下越・中越地方でも，その生息密度を注視して

おく必要がある．マツヘリカメムシはマツ科植物の害虫であり（石川・菊原 2009; 石川ら 2012），生息密度の増大によってマツ科植物の生育に影響が生じる可能性がある．有本（2022）によれば，東北地方の日本海側のクロマツ林ではマツヘリカメムシが最優占種になっている可能性が指摘されている．こうしたクロマツ林では，植生遷移の進行による広葉樹の侵入やマツ枯れの被害などによる海岸林管理への影響が指摘されており（藤田・中田 2001; 山口・中田 2008），ここにマツヘリカメムシの影響が加わる恐れもある．新潟県の沿岸部にもクロマツ林が発達しており，海岸林の管理や防災の観点からもマツヘリカメムシの生息状況の把握が急がれる．

謝辞

大阪市立自然史博物館の井藤竜大氏にはご高著別刷りを提供していただきました．キョロロ学芸員の小林誠氏にはキョロロ周辺のマツ科植物についてご教示いただきました．感謝申し上げます．

引用文献

有本実（2022）秋田県と青森県におけるマツヘリカメムシの記録．*月刊むし* (612) : 50-51.

馬場孝（2015a）新潟市中央区でマツヘリカメムシを採集．*越佐昆虫同好会々報* 112 : 69.

馬場孝（2015b）新潟市中央区におけるマツヘリカメムシの追加記録．*越佐昆虫同好会々報* 113 : 79.

藤田恵美・中田誠（2001）海岸砂丘地のクロマツ林における広葉樹の混交による立地環境の変化．*日本林學會誌* 83(2) : 84-92.

畑田彩・佐藤一善・村山祐一（2009）十日町市松之山地域の植物相．*雪里研究* 1 : 35-44.

一瀬政人（2021）京都府綾部市，福井県高浜町でマツヘリカメムシを採集．*月刊むし* (610) : 52-53.

井藤竜大（2016）マツヘリカメムシの記録．*ならがしわ* 162 : 1.

石川忠・菊原勇作（2009）北米産ヘリカメムシ *Leptoglossus occidentalis* Heidemann の日本からの記録．*昆蟲（ニューシリーズ）* 12(3) : 115-116.

石川忠・高井幹夫・安永智秀（編）（2012）日本原色カメムシ図鑑 第3巻．株式会社全国農村教育協会．東京.

岸本年郎・島田孝（2021）静岡市における外来種マツヘリカメムシの記録．*東海自然誌* (14) : 71-73.

真嶋豪（2016）長岡市と柏崎市においてマツヘリカメムシを採集．*越佐昆虫同好会々報* 114 : 91.

松之山町史編さん委員会（編）（1991）松之山町史．松之山町，松之山.

三村義友（2021）大分県におけるマツヘリカメムシの記録．*月刊むし* (607) : 59.

宮ノ下明大・曲山幸生（2014）茨城県つくば市において冬季に建物で発見されたマツヘリカメムシ *Leptoglossus occidentalis*．*ペストロジー* 29(1) : 23-24.

森本涼介（2021）島根県におけるマツヘリカメムシの記録．*ホシザキグリーン財団研究報告* (24) : 102.

中村頌湧（2019）佐賀県で初めて確認されたマツヘリカメムシ *Leptoglossus occidentalis* Heidemann. *PULEX* (98) : 809-810.

中野潔（2016）マツヘリカメムシを新潟県新発田市の山間部で採集．*越佐昆虫同好会々報* 115 : 26.

斎藤かや子（2020）燕市でマツヘリカメムシを採集．*越佐昆虫同好会々報* 121 : 42.

斉藤陽一・山地治（2021）倉敷市で外来種マツヘリカメムシを採集．*しぜんしくらしき* 116 : 3.

玉川晋二郎・田村茉織・安森盟文（2022）香川県におけるマツヘリカメムシの記録．*月刊むし* (613) : 32.

田中馨（2019）外来種のマツヘリカメムシを宇部市で採集．*山口のむし* (18) : 144.

刀禰浩一（2020）沖縄島で外来種マツヘリカメムシを確認．*琉球の昆虫* (44) : 79-80.

鶴智之・大生唯統・田村昭夫（2020）外来種マツヘリカメムシ *Leptoglossus occidentalis* の鳥取県からの初記録と分布の拡大状況に関する考察．*鳥取県立博物館研究報告* 57 : 37-43.

渡部晃平（2020）石川県本土側におけるマツヘリカメムシの採集記録．*月刊むし* 587 : 53-54.

山口友平・中田誠（2008）市街地に隣接した海岸クロマツ林における常緑広葉樹の侵入と成長－新潟県新潟市の事例－．*海岸林学会誌* 7(2) : 7-15.